

普及活動情勢報告（令和5年5月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

水稻の乾燥調整施設を更新したい！

・・・大宮地区水稻農家座談会・・・



4月21日、四万十市西土佐大宮中集会所で大宮地区の乾燥調整施設の更新について、座談会を開催し、大宮地区の水稻生産者19名・関係機関5名が参加しました。

農業改良普及課から、施設を更新する必要性について説明を行い、その後意見交換を行いました。

参加者からは、「施設を更新しないと自分達が困る」、「直接支払制度や補助事業の活用で、地元負担が少なくなるようにして」等の意見が出ました。

また、今回は地元から選任された農家で検討委員会を開催し、更新に向けた検討を行うことになりました。

今後も、検討委員会への情報提供や他地区の乾燥調整施設の視察を呼びかけを行い、協議を進めていきます。

飼料用米の低コスト栽培を目指して！

・・・(農)ふぁー夢宗呂川・・・



4月18・19日、土佐清水市下川口の(農)ふぁー夢宗呂川の水田で田植えが実施され、生産者5名、振興センター2名が参加しました。

飼料用として利用している米品種“イクヒカリ”を低コストで栽培するために、鶏糞堆肥と緩効性肥料（N単肥）を合わせた実証ほ（6区）を下川口地区に設置しました。

農業改良普及課からは、田植機の施肥量設定の調整や各処理区の説明を行いました。

生産者からは、コストと生育・収量への影響等について質問がありました。

今後は生育調査を行い、鶏糞堆肥の効果について検証し、飼料用米の低コスト・増収へとつなげていきます。

収量アップと経営安定を目指して！

・・・新規就農者支援チームによる現地指導・・・



4月24日、三原村の新規就農者1戸を対象に、関係機関と指導農業士で構成する支援チーム5名では場を訪問し、栽培・経営状況の確認や今後の課題の共有を行いました。

農業改良普及課は病虫害防除や整枝・剪定のポイントについて指導しました。

新規就農者からは「どんな樹形を目指せばよいか」、「どの枝を残すべきか」など、剪定方法について質問がありました。

今後も新規就農者の経営目標達成に向けて支援チームで栽培や経営などの支援を行っていきます。

関係機関が“一枚岩”で担い手対策・・・土佐清水市園芸農家担い手対策チーム会・・・



5月8日、土佐清水市役所で第1回土佐清水市園芸農家担い手対策チーム会を開催し、関係機関10名が参加しました。当チームは、農家の高齢化や後継者不足、労働力不足を背景に地域の担い手の確保を目的として市役所、JA、農業改良普及課で結成されたものです。農業改良普及課は、担い手対策に向けた活動計画案を提案し、今後の取組について関係機関で意見交換を行いました。今後は、JA高知県三崎支所施設園芸部会を対象に新規就農希望者の確保や研修生の受入体制強化に取り組む計画となっており、今後も、関係機関と連携し、活動の進捗管理を行いながら担い手対策に取り組んでいきます。

キュウリの箱詰め作業を紹介！

・・・第1回幡多地区農福連携協議会・・・



4月28日、黒潮町役場会議室で第1回幡多地区農福連携協議会を開催し、福祉関係の事業者など関係者36名が参加しました。農業改良普及課は、この会議開催の準備や協議会の進行等を行いました。会議では須崎青果の協力を得て、キュウリの箱詰め作業の説明と実際に箱詰めの実演を行いました。また、多機能事業所STEPONEからは利用者が箱詰めを行っている作業のポイントや注意点などの報告がありました。参加者からは、「実際に箱詰め作業を見ることで作業がイメージしやすかった」、「キュウリの箱詰め作業はできるかもしれない」などの意見が聞かれました。今後も引き続き、農福連携のマッチングが進むよう、支援を行っていきます。